証券業界における子供の貧困支援に関する取組み事例集

2020年10月

「こどもサポート証券ネット」事務局

（日本証券業協会SDGs推進本部SDGs推進室）

はじめに

日本証券業協会（以下、「本協会」といいます。）では、「持続可能な開発目標（SDGs）」で掲げられた社会的課題の１つである「子供の貧困問題」の解決に向け、業界全体の取組みを推進しています。

2018年６月、本協会の「社会的弱者の教育支援に関する分科会」にて、証券会社と子供の貧困問題に取組むNPO法人等を結ぶプラットフォームとして、「こどもサポート証券ネット」を構築することが提言され、2019年12月より、運営を開始いたしました。

「こどもサポート証券ネット」は、これまで社会貢献活動を行っていない会社様も、自社の株主優待品や災害備蓄品を通じて、気軽に社会貢献活動に取り組めるような仕組みを目指しております。

NPO法人等へのヒアリングを重ね、保管場所の都合上、少量の支援を望む団体が数多くいらっしゃることがわかりました。こどもサポート証券ネットは、「缶詰１つ」など少量の寄付も受け付けており、開始から約１年で、証券会社の皆様の協力の下、ロットを問わず、多くの支援に繋がっております。

また、本冊子は、NPO法人等や証券会社が実際に行っている子供の貧困問題解決に向けた取組みを中心に紹介しておりますので、こどもサポート証券ネットに参加いただいている皆様はもちろん、参加を検討している皆様にとっても、理解や取組みの参考となれば幸いです。

子供の貧困問題は、証券業界にとっても中長期的なリスクです。子供の貧困問題の放置によって、格差がより深刻となり、日本経済社会に悪影響を及ぼせば、おのずと証券市場が縮小する可能性があります。子供の貧困問題対策は、「未来への投資」と考え、取組む必要があります。

皆様におかれましては、こどもサポート証券ネットにより、少しでも我が国の子供たちが置かれる状況が改善されるよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年10月
こどもサポート証券ネット事務局
（日本証券業協会　SDGs推進室）

目　次

◆１．こどもサポート証券ネットにおける取組み事例・・３

① こどもサポート証券ネットとは

② 参加証券会社の声

✓ 立花証券株式会社

✓ 藍澤證券株式会社

③ これまでの実績・参加証券会社

◆２．証券会社における子供の貧困支援に関する取組み事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

＜①社員が参加したくなる仕組み作り＞

・大和証券株式会社（社内表彰、寄付金控除等）

＜②社内で取り組める仕組み＞

・三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社（社内ワークショップによる箸置きづくりプロジェクト）

・野村證券株式会社（社員食堂での寄付付きメニューの導入）

＜③物品の支援＞

・東海東京証券株式会社（災害備蓄品の寄贈）

＜④人の提供＞

・SMBC日興証券株式会社（継続的な児童養護施設支援の実施）

・UBS証券株式会社（プログラミング教室の開催）

◆３．NPO法人等からの声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

① ボランティアを求める声

・場所の提供を求める声

・子ども食堂関係団体

・学習サポート関係団体

・子供の居場所提供関係団体

② こどもサポート証券ネットを利用した感想

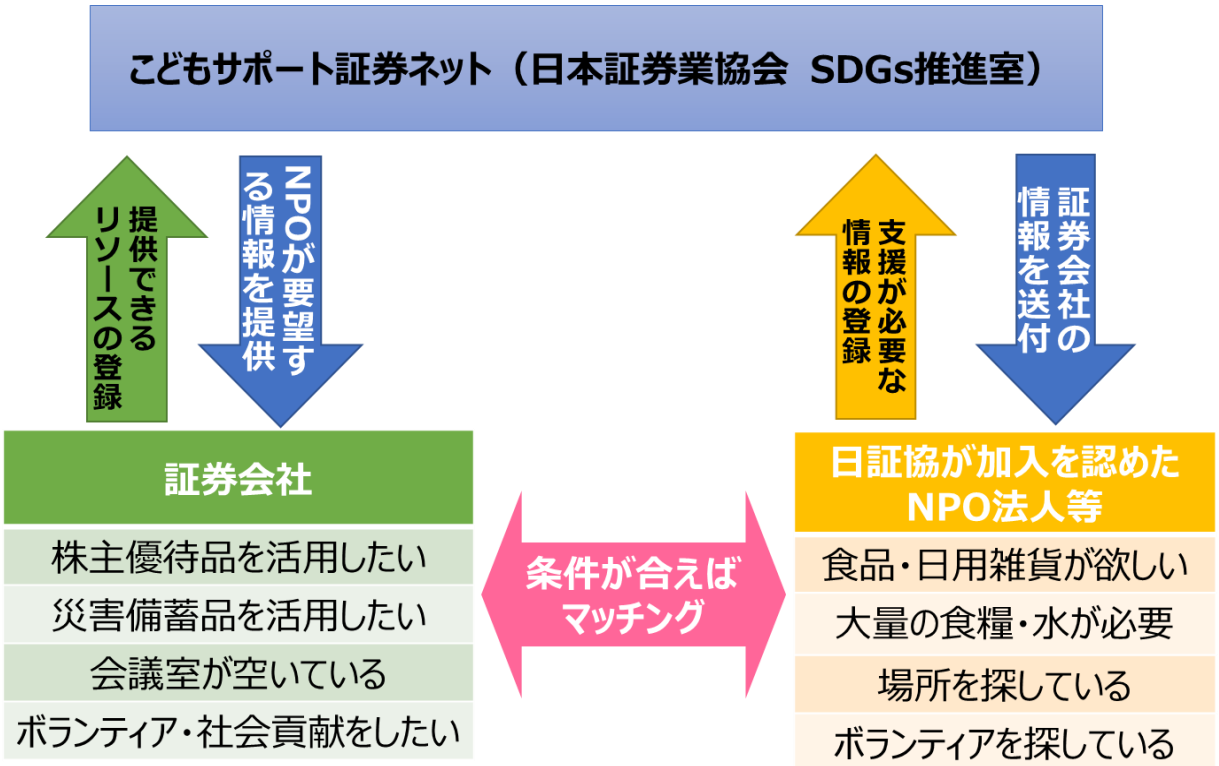
１．こどもサポート証券ネットにおける取組み事例

この章では、「こどもサポート証券ネット」の概要及び本取組みに積極的にご参加いただいている証券会社２社（立花証券、藍澤證券）をご紹介いたします。

こどもサポート証券ネットとは

本取組みは、証券会社が提供できるリソースを、子供の支援に向けた活動に有効活用していただくことにより、我が国における子供の貧困問題の解決に資することを目的としています。

具体的には、証券会社は、自社で提供できるリソース（現在は、証券会社が株主として受け取る株主優待品や、災害備蓄品などの「物品」のみを対象としておりますが、将来的には営業店等の会議室の「場所」の提供、ボランティア等の人の派遣等も含めることを予定しております。）を、子供の支援に向けた活動を行っているNPO法人等は、受けたい支援をそれぞれ登録し、メールを通じて、相互に登録された情報を提供する仕組みになります。



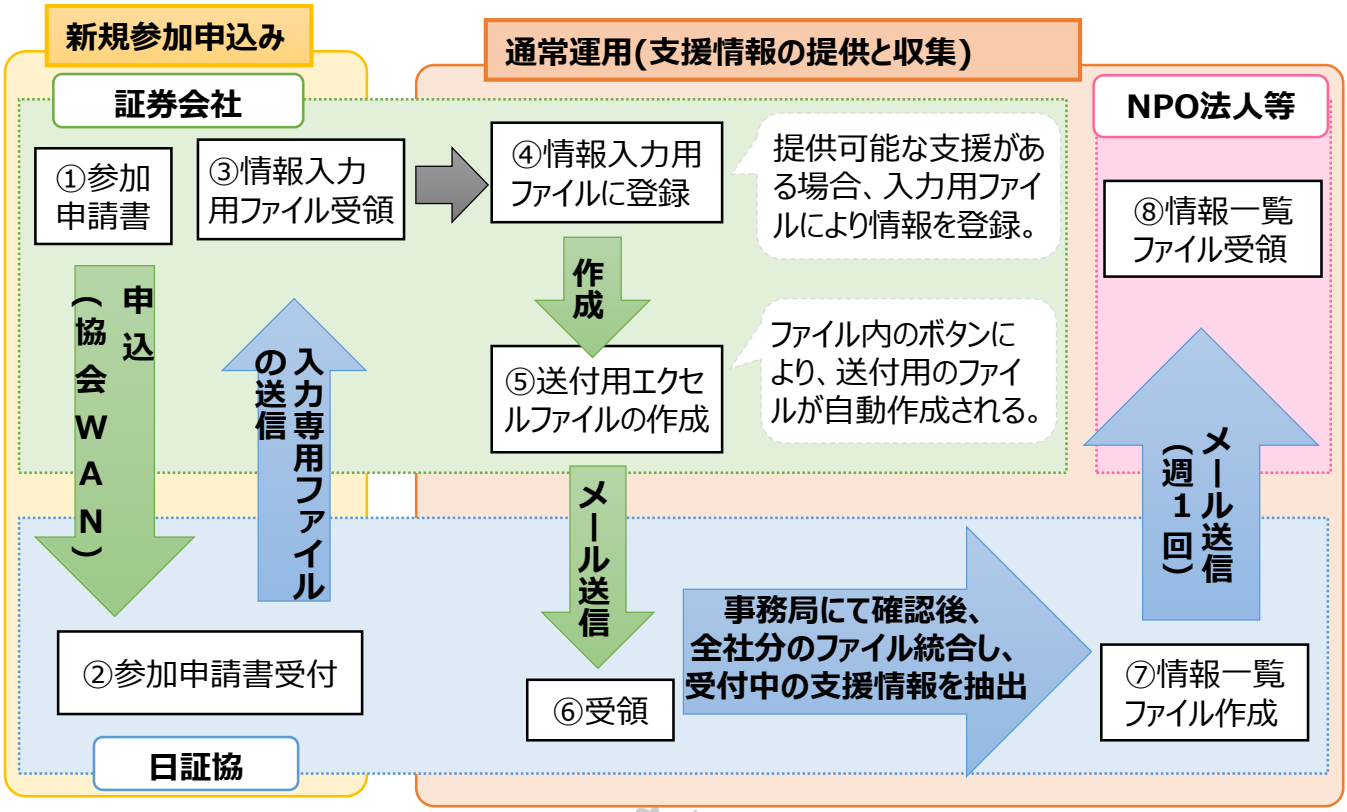
参加～支援に至るまで

こどもサポート証券ネットにご参加いただくと、概ね次の図のような流れで、こどもサポート証券ネット事務局（以下、「事務局」といいます。）より週に１度（原則金曜日）、メールにて支援情報をお送りいたします。

証券会社は、以下の図のとおり、登録作業を行います。

- 図④　提供できるリソースを情報入力用ファイルを介して登録
- 図⑤　生成されたエクセルファイルを事務局にメールで送付

一方で、NPO法人等も同様に、受けたい支援をご登録いただいているので、証券会社の皆様にも週に１度、NPO法人等から要望のあった支援情報の一覧をお送りしております。そのため、条件が合致した場合、証券会社から直接アプローチすることも可能です。



イメージ図

支援の対象となるもの

（2020年10月時点　※今後拡大予定のものを含む）

- 米
- 乾麺・乾物・缶詰・調味料
- レトルト・インスタント食品
- 飲料・菓子
- 詰め合わせ（ギフトセット）
- 筆記具
- 日用品
- 医療品・医薬品玩具
- 各種チケット（商品券・クオカード・割引券等含む）
- オフィス家具・インテリア

※2021年以降、場所（会議室等）の提供や、ボランティアも追加予定

その他、上記支援対象とともにご登録いただく事項

- 受付の期限
- 支援の具体的な内容
- 支援の対象者（未就学児、小学生、中学生、高校生その他）
- 支援の提供が可能な地域
- 費用負担
- 担当者の情報

支援の対象となるもの

登録する情報

こどもサポート証券ネット　支援情報入力フォーマット

会社名：
部署名：

項番：　データ読込　データ削除　クリア

項目	入力エリア
支援の種類（リストから選択）　必須	
支援の内容（具体的な支援内容）	
支援対象者（複数選択可）	☐ 未就学児　☐ 小学生　☐ 中学生　☐ 高校生　☐ その他
その他を選択した場合の具体的な支援対象者	
地域（複数選択可）　必須	全国 ☐ 全国 北海道 ☐ 北海道 東北 ☐ 青森 ☐ 岩手 ☐ 宮城 ☐ 秋田 ☐ 山形 ☐ 福島 関東 ☐ 茨城 ☐ 栃木 ☐ 群馬 ☐ 埼玉 ☐ 千葉 ☐ 東京 ☐ 神奈川 ☐ 新潟 ☐ 山梨 ☐ 長野 北陸 ☐ 富山 ☐ 石川 ☐ 福井 中部 ☐ 岐阜 ☐ 静岡 ☐ 愛知 ☐ 三重 関西 ☐ 滋賀 ☐ 京都 ☐ 大阪 ☐ 兵庫 ☐ 奈良 ☐ 和歌山 中国 ☐ 鳥取 ☐ 島根 ☐ 岡山 ☐ 広島 ☐ 山口 四国 ☐ 徳島 ☐ 香川 ☐ 愛媛 ☐ 高知 九州 ☐ 福岡 ☐ 佐賀 ☐ 長崎 ☐ 熊本 ☐ 大分 ☐ 宮崎 ☐ 鹿児島 ☐ 沖縄
費用の負担（リストから選択）　必須	

実際の入力フォーマット

参加証券会社①

立花証券株式会社

＊担当者による支援成立までの取り組み

①優待品の収集

優待品はすべて総務部に届くように一括管理しており、支援対象となっている物品は原則、すべて提供しております。食料品のうち、特に人気の高いものはレトルトカレーとお米のため、カタログ優待ではこれらを中心に選択し、品物に替えたうえで登録しております。

②支援の登録

レトルトカレー、米など大量に収集できた物品は一つにまとめ、数量の少ないものは多種類のものをまとめてひとつのカテゴリとして登録し、効率化を図っています。登録は原則として３か月に一度取りまとめて協会へファイルを送っています。

③支援の成立

原則として先着順で受け付け提供しています。ただし、複数のNPO法人からほぼ同時に同じ物品に応募があった場合は数量の調整を行い、広く行き渡るようにしています。

④検品・発送

原則として送料はNPO法人の負担としています。発送前に事前に送料を業者に確認し、発送時にNPO法人に案内したうえで発送しています。

＊こどもサポート証券ネットの支援方針、支援を行った効果

現在、株主優待品のうち、主に食糧品を中心に全国のNPO法人に提供できるよう、尽力しています。株主優待品を子供をサポートするNPO法人に提供し、社会貢献ができるようになった点は非常に良いと感じています。

提供したNPO法人のホームページで当社の支援を紹介されたケースもあり、NPO法人より支援品を受け取って喜ぶ子供たちの様子をなど、お礼の報告をいただいた時は達成感があります。

*担当者による支援成立までの取り組み

・本件に直接携わっているスタッフは2名。
役割分担は、提供物品の保管管理担当とNPO法人との窓口および協会・登録への対応（物品の登録、管理、発送を担当）。

＜支援の流れ＞

①物品選定：株主優待品を受領・管理する担当部署で物品選定。

②物品登録：上記①確認後、協会フォーマットに登録＆メール発送。

③提供依頼：NPO法人より提供希望物品の連絡を受信。

④物品確認：対象物品を確認し、担当部署へ連絡。

⑤発送準備：NPO法人へ依頼受託メール送信。協会フォーマットへ”受付停止中”と情報更新。

⑥物品手配：担当部署が倉庫より当該物品等を搬入。

⑦発送手続：物品を検品後、検収書を同封し段ボールへ箱詰め。

⑧物品発送：配送業者による発送。

⑨発送連絡：依頼されたNPO法人へメールにて発送連絡。

⑩登録作業：協会フォーマットへ”受付終了（契約成立）”と更新。

⑪検収確認：NPO法人からの検収書到着の確認をし、対応終了。

*こどもサポート証券ネットの支援方針、支援を行った効果

従来、株主優待品は当該企業との関連性を考慮し、管轄部署の判断により、随時配布等を行っていました。しかしながら、小分けにできる優待品が少ないことや物品の形状から配布が困難であること等が問題点としてあがっていました。今回、本取組みに参加したことにより、上述の社内問題が解決できただけでなく、期せずして、持続可能な開発目標SDGsの目標１「貧困をなくそう」に取り組むことができました。

また昨今、増加している株主優待カタログに対しても、お米やレトルト商品等の食品類を優先的に選択することで、優待商品の到着から日にちを空けずにNPO法人さんへ発送することができるため、保管期間が短くなったという副次的な効果も出ています。

今まで高齢者支援（見守り）をはじめ、リテラシー教育やインターンシップ活動等を通じて、SDGsに取り組んでまいりましたが、今回、「こどもサポート証券ネット」に参加することで、SDGsの目標達成に向けて、より一層貢献してまいります。

参加証券会社②

藍澤證券株式会社

これまでの実績・参加証券会社

支援実績（2020年１月～2020年10月時点）

◆ 現在までのマッチング件数は223件

◆ マッチングしている主な物品等

米（精米済み）	**370 kg**
飲料（災害備蓄品の水、ジュース等）	**約203ℓ**
パック米、インスタント・レトルト食品	**1000食以上**

その他、缶詰、お菓子、日用品、筆記用具等

提供していただいた品物の一例

※ロットの大きいものから、少量のものもあり、多岐にわたります。登録数に対しての成約率は約90%と高く、ほとんどの物品が登録後すぐにマッチングに至ります。

NPO法人等によって、大量の支援を好む場合と、保管場所の都合上、少量の支援を望む場合がございますので、少量であっても、ご登録いただくことを推奨しております。

- 米　61kg
- 某食品メーカー　缶詰等の詰め合わせ×2つ
- 某有名飲料水　　500ml×24本×10箱
- 自社ノベルティのクリアファイル　100枚
- 某有名テーマパークペアチケット

参加証券会社：32社（2020年10月時点）

藍澤證券、岩井コスモ証券、エース証券、

ＳＭＢＣ日興証券、岡三証券、岡三にいがた証券、

岡安商事、共和証券、極東証券、光世証券、

ゴールドマン・サックス証券、七十七証券、証券ジャパン、

だいこう証券ビジネス、第四北越証券、大山日ノ丸証券、

大和証券、立花証券、ちばぎん証券、東洋証券、内藤証券、

中原証券、ナティクシス日本証券、ばんせい証券、丸三証券、

みずほ証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、水戸証券、

むさし証券、明和證券、山和証券、リテラ・クレア証券

※50音順

２．証券会社における子供の貧困支援に関する取組み事例

この章では、こどもサポート証券ネットとは別に、証券会社が自社の取り組みとして行っている子供の貧困支援についてご紹介いたします。

社員が参加したくなるような仕組み作りや、社内で完結できる取組みなど、様々な活動がございますので、本事例を参考にしていただき、自社でできる活動のイメージを膨らませていただけると幸いです。

大和証券
株式会社

＊基金の創設、役職員による募金活動、表彰制度

日本の子供たちの7人に1人が相対的貧困に直面しているという深刻な状況を踏まえ、課題解決の一助となるべく、2017年度から「大和証券グループ　夢に向かって！こどもスマイルプロジェクト」をスタートさせました。

プロジェクトの一環として、公益財団法人とともに、こどもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に「輝く未来へ　こども応援基金」を創設し、毎年公募による助成を行っています。また、役職員など有志による募金活動「サンタチャリティプログラム」を同時に企画し、困難な環境下で生活する子供たちの楽しい思い出づくりのため、継続的にプレゼントをしています。寄付先団体が企画するクリスマスイベントに会場を提供し、社員が運営をサポートするなどプログラムの拡充も図っているところです。

これらの活動は継続性が重要なことから、会社および役職員による取組みそれぞれにテーマの一体感を持たせると共に、寄付金控除が受けられるなど参加しやすい仕組みづくりを心がけています。

また、告知から実施状況、さらに支援者からの反響については、タイムリーに社内のwebサイトやサテライト放送および社内報を通じて共有しています。

ボランティア表彰制度を設け、継続的かつ自発的に地域社会で活動している社員・グループを年2回表彰したり、ボランティア休暇制度の導入など、社員の積極的な取組みを支援しています。

ひとりじゃないよ
大和証券グループ
夢に向かって！こどもスマイルプロジェクト

＊社内ワークショップ形式で気軽に参加できる活動
（箸置きづくりプロジェクト）

「箸置きづくりプロジェクト」は、企業との協働による森づくり活動を推進しているNPO法人が提供するワークショップ型のプログラムです。国産の間伐材からできた紙バンドを用いて箸置きを制作し、子供たちへのメッセージを添えて、全国の「子ども食堂」に寄贈しています。

当社では、「地球環境問題への対応」「次世代社会の担い手育成」をボランティア活動の主要テーマに据え、社員の参加率を高めるべく取り組んでいます。本プログラムは、森林環境保全や子供育成に資する、当社の活動テーマに沿った取り組みであること、またランチタイムなどを利用して、会議室や食堂等身近な場所で気軽に取り組める活動で、多くの社員の参加が見込めることなどが、導入のきっかけです。

導入してからまだ1年ほどですが、既に500名を超える社員が参加し、1,200個を寄贈しました。部署やチーム単位での参加を推奨し、日頃仕事以外の接点の少ないメンバー間のコミュニケーション機会としても活用されており、大変好評です。

また、寄贈先の「子ども食堂」では、必要最小限の物資を揃える事に苦労しており、多くの場合箸置きまで用意する余裕がないそうで、子供たちに食事のマナーを教える食育にも役立つものと、感謝の言葉をいただいています。

三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社

野村證券株式会社

＊社員食堂での寄付付きメニューの導入

社員食堂での対象ヘルシーメニュー1食あたり20円、社内の対象自販機のドリンク1本あたり10円が寄付される仕組みです。20円は、開発途上国での学校給食一食分。社員がヘルシーメニューを食べると、アフリカの子供たちへ温かい給食1食が届けられることになります。食堂で対象メニューを選択するだけで簡単に、誰でも参加/協力できる仕組みであり、役職員は食を通じて社会貢献意識に加えて自身の健康を気遣う意識も高まっています。これまでに（2010年～2019年10月時点）、558,262 食分を寄付しています。

そのほか、生活習慣の改善や健康意識の向上に繋がることを目的としたオリジナルの健康プラットフォームを通じて、役職員が歩いた歩数に応じて寄付が行われる仕組みも提供しています。

また、社内のイントラネット上で、児童養護施設訪問や東北復興に向けたさくら植樹プロジェクトなど社員にボランティア機会の情報発信を行い、社会貢献担当が取りまとめを行っています。

東海東京証券株式会社

＊災害備蓄品の寄贈

当社グループは、CSR活動の取組みとして、災害備蓄食料をNPO法人に寄贈しています。

本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」は深刻な問題であり、国民運動「NO-FOODLOSSプロジェクト」が展開されています。そのような中、NPO法人等の中には、賞味期限が迫った備蓄食料や、食品企業の製造過程で発生する規定外品などを生活困窮者に届ける「フードバンク活動」を行う団体があることを知り、当社グループ内における災害備蓄食料を活用できないかと、社内で検討したことがきっかけです。

現在では、災害備蓄食料に留まらず、株主優待として当社グループに送られてくるお米や飲料水といった日持ちのするものも含めて寄贈しています。

送り先のNPO法人からも当社グループから寄贈した品々を活用していただいているとのご報告を受けています。今後も、地域社会への貢献と食品ロス削減に積極的に取組んでいく予定です。

＊アスリート社員との交流会、児童養護施設での継続的な社会貢献活動

ＳＭＢＣ日興証券の渋谷支店では、2011年より児童養護施設への社会貢献活動を行っており、今年で8回目の活動となります。アスリート社員との交流会を実施したり、支店の有志より集められたおもちゃや文具を、施設の職員の方や子供たちに直接届けたりしています。

2018年度に役社員一人ひとりが積極的にCSR活動に取り組む企業文化を醸成することを目的として創設した日興CSRアワードという社内表彰にて取組みの紹介をしたところ、他部署からも手作りグッズが寄せられる等の反響があり、さらに大きな支援ができるようになりました。

また、施設の子供たちからいただいたお礼の色紙を支店に飾り、来訪されたお客さまにも取組みをご紹介することで、子供たちが明るい未来を描けるような社会を実現したいという想いを広く発信しています。

今後も、この活動を継続するとともに、役社員一人ひとりが子供の貧困問題に対して、思いやりと支え合う気持ちを持って、身近なことから支援ができるような企業文化を醸成してまいります。

ＳＭＢＣ
日興証券
株式会社

UBS証券株式会社

＊社員による子どもたちへのプログラミング教室の開催

UBSのプログラミング教室は、2014年にUBSテクノロジー部のひとりのプログラマーによって発案され、今年で6年目となります。プログラミングのスキルを持つ社員が中心となり、子どもたちにプログラミングの基礎を教えるプログラムです。

デジタルの知識を提供することは子どもたちのスキルアップに繋がるという考えは、テクノロジー部長および社員の共通意識であり、年々このプログラミング教室にかかわる社員も増えてきました。

教室は約2か月の間、2週間おきの3回シリーズで行われ、平日の放課後に子どもたちがUBSのオフィスを2時間訪問します。使用するラップトップ（PC)は、社内で空いているPCを集めて、一時的に教室向けのPC設定を行ったものを使用しています。

平日夕方オフィスでの開催のため社員にとっても参加しやすく、6年間に延べ50名以上の社員、そして約30名の中・高校生の聴覚障がいがある子どもたちと5名の外国にルーツを持つ大学生がJavaScriptプログラミング言語を学びました。この教室を機にプログラミングのことが好きになった子どもはさらにプログラミングを勉強し、テクノロジー関連の仕事に就くことを目指したり、将来を切り開くきっかけにもなっています。

３．NPO法人等からの声

「こどもサポート証券ネット」では、今後、場所の提供、ボランティアの支援が可能となるように、支援内容の拡充を検討しています。

この章では、こどもサポート証券ネットに参加しているＮＰＯ法人の中から、①場所の提供を求める声、②ボランティアを望む声を紹介します。

また、こどもサポート証券ネットを通じた支援について、NPO法人等からいただいた感想の一部をご紹介します。

※団体名は非公開

場所の提供を求めるNPO法人の声

○ NPO法人にとってのメリット

当団体では、理事会、総会、プロジェクトの委員会、関連団体との会議、研修会、ボランティアの手仕事の会などを行う際に、企業から会議室の提供をいただいております。

会場費用の負担が軽減できたということだけでなく、どんな企業が自分たちの活動を支えているかということを寄付担当者以外のメンバーが実感できるため、企業の皆様のお力添えは大変ありがたく感じています。

○ 難しい点

一方で、場所を提供していただくにあたり、難しい点は、企業によってはセキュリティの関係があり、ばらばらに入館できない場合があることが挙げられます。また、必ず社員の同席が必要なため、社員の方に負担がかかることから、休日や夜間など就業時間外については利用が難しいという点もあります。

○ 支援いただく証券会社の方に求めること

企業の皆様にお願いしたいこととして、ボランティア活動の際には、一緒に参加いただけるとありがたいです。その際には、茶菓などを共にして、子供たちと相互理解を深めることができるとさらに良いと考えております。

○ 活動内容

当団体は、フードバンク事業とファミリーサポート事業を柱に、食品ロスを活用した食料支援を軸とし、教育や心身のサポート等の包括的支援を行うことで目指しております。

具体的に、現在企業に協力していただいている内容は、主に以下の３つになります。

① 企業の社員研修におけるセミナー開催（参加される企業の社員に子どもの貧困問題をより理解していただく）
② フードドライブ活動（ご家庭で余っている食料品等を企業に持ち寄り、貧困家庭に配付する活動。）を社内で取り組む
③ 子ども食堂への参加（子供と直接接するものから、調理補助まで多岐にわたる）

○ 支援後の対応について

支援企業へのお礼を、写真や子どもの声と一緒に届けています。また、食品に対しては食品衛生管理責任者を置いて、安心して企業が協力できる環境を整備しております。

○ 難しい点

支援企業との連携で難しいと感じるのは、資金面やマンパワーにおいて、企業側がこちらの事情を把握できないことから複雑な報告書や手間のかかる対応を求められたり、費用の負担等が求められたりしてしまうことが挙げられます。

対処法としては、最初から当方の事情をしっかり伝えておくことを重要視し、コミュニケーションを取ることを心がけています。

○ 企業に求めること

福祉への社会貢献は福祉の心が求められます。子どもの貧困支援はお金や物を渡して改善される課題ではなく、企業の社員ひとり一人がわが子の問題、わが地域の問題として他人事を自分事として捉えなおすことがとても重要だと、当団体では考えております。そのため、企業の皆様には、近隣で子どもの貧困問題に取組んでいるNPO団体があれば積極的にボランティアに参加したり、現場をわかろうとする努力や姿勢が求められると思います。

ボランティアを求める声

学習サポート関係団体

○ 活動内容

本団体の取り組みの一つして、学力向上に意欲のある全ての子どもたちに自習の場を提供し、教育格差の是正に寄与することを目的とした取り組みの食事付き学習塾があります。平日夕方～夜間の間、事前に利用者登録をした小4～中3生までの子どもたちが利用し、軽食を摂ることができます。

自習室利用者の子どもから感謝の置き手紙をもらったり、ほぼ毎日利用している子どももいることから、居場所づくりという課題において一定の役割を担っていると考えています。

○ 支援後の対応について

支援企業には、年1回のレポート（教育支援事業前半に関する報告）と、利用者の子ども達（ステップアップ塾）からの感謝のお手紙を毎年お送りしています。

○ 企業に求めること

自習室利用者は自主的に学習ができ、また大人(家族)との問題を抱えている場合もあるため積極的な大人との交流を求めていません。スタッフは見守りと備品等のケアが中心になります。

ボランティアを求める声

子供の居場所提供関係団体

○ 活動内容

子どもたちの居場所兼保護者了承のもと宿泊することが可能な居場所づくりを行っております。そこに来る子たちは、皆で手作りのご飯を囲み団らんを囲みます。

また、ひとり親家庭、経済的に困窮している家庭３００世帯への食糧支援なども行っており、こどもサポート証券ネットでご寄付いただいた物品等はそれらの活動にて利用させていただいております。

○ 支援後の対応について

支援いただいた企業へのお礼として、ご協力いただいた際には、どのような活動を行ったか、写真などで報告するようにしています。また、あらかじめ支援企業に掲載する記事の確認をしたうえで、ＨＰなどで情報発信を行っています。

○ 企業に求めること

遊園地の入場券などは、ひとり親家庭への「機会の提供」となり、有効な成果を創ることができると思います。企業にとっても、大きな物品を提供するより、引き渡しにかかる負担は小さいものだと思われますので、まずはこのような支援からでもご提供いただけるとありがたいです。

また、ご提供いただいた食材等が、どのように受益者に届き、どのような反応があるのかを、ぜひ一度、活動現場にお越しいただき、直接受益者にお渡ししてほしいです。体験することで、活動の必要性や、つながることで得られる豊かさも実感できると思います。

利用した感想（一例）

※掲載は順不同

○ 光世証券によるご支援

支援物品：魚沼産こしひかり米１０キロ×2袋

缶詰　カレー、鮭等6個

新型コロナウィルスの感染拡大防止のため学校が休校となり、子どもたちの居場所がなくなってしまったり、学校給食がないために食事・栄養摂取が心配な状況となりました。弊団体では複数の子ども食堂を運営していますが、3月中は少人数登録制の困窮家庭に限定した子ども食堂は開催し、不特定多数が大勢集まる地域の憩いの場となっている子ども食堂は中止しました。

困窮家庭への食糧支援と、中止の告知が届かずに来場してしまった親子へのお土産用に急きょ、支援物資を申し込みました。

大変親切にご対応いただき、届いた食料の状態も大変良好で感激いたしました。感謝に堪えません。

○ 立花証券によるご支援

支援物品：お米54kg、高級フェイスタオル12枚

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、職場の閉鎖や給料の減収が生じた首都圏各地の児童養護施設等の退所者の緊急支援として、提供いただいた食料の配送を実施しています。

児童養護施設退所者は、学生でアルバイトをしている方か、非正規雇用で働いている方が多く、大幅な減収もしくは解雇のケースも出ております。そうしたなかで、食料の提供は大変に有難く、当面の生活を確保しながら、収入減、失業に対する補助金の情報を一緒に探すという流れができております。こうした状況でも親元を頼れない若者にとっての不可欠な支援になっております。誠にありがとうございます。

○ 大和証券グループ本社によるご支援

支援物品：レトルトカレー25食、スープ5食、胡麻油6本、ティーバッグ100袋、はちみつ3瓶、オリーブオイル12本等

ご対応がとても丁寧で、新型コロナウイルス対策緊急支援で現場がばたばたしている中で、心が温まりました。ありがとうございました。

フードパントリーでは、配布する食材の不足が問題となっており、タイムリーにご対応いただけて、配送されたその日に使用することができ、とても喜ばれました。

○ 丸三証券によるご支援

支援物品：レトルト食品等（その他、複数回の支援）

何度かご支援いただいているので、今回もご連絡後迅速にご対応いただけました。

週末に開催したサッカー教室で、教室終了後におみやげとしてカレーを配布させていただきました。子どもたちは、それぞれ好きなインスタント食品を持ち帰ってもらいました。帰って食べるのが楽しみだとそれぞれ話しておりました。ありがとうございました。

○ 岡三証券によるご支援

支援物品：食品・マスク・ティッシュ・除菌シート等（その他、複数回の支援）

今回も申請後数日で到着しました。いつも迅速なご対応ありがとうございます。物品は、学習支援教室に通う生徒の中でも満足に食事を取ることが難しい生徒を中心に配布させていただきました。日持ちする食品や衛生用品は、生活必需品にもなりますので、生徒より感謝の言葉をもらいました。いつも申請から迅速にご対応いただけることで、子ども達への配布もスムーズに行うことができるので、誠に感謝しております。

利用した感想（一例）

※掲載は順不同

とう し
10/4は
証券投資の日

とうしくん®

JSDA
日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association